

2021年12月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2021年11月 マンスリー レポート

集計企業数 **50** 社

① 売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	59,711,856 万円	100.0%	99.5% (101.3%)	58,189,715 万円	98.4% (100.1%)
食 料 品	51,121,633 万円	85.6% (86.7%)	99.8% (102.1%)	49,707,119 万円	98.5% (100.6%)
農 産	7,296,904 万円	12.2% (13.2%)	98.0% (99.5%)	7,098,288 万円	96.7% (98.0%)
水 産	4,640,828 万円	7.8% (7.7%)	98.8% (100.3%)	4,509,339 万円	97.5% (98.8%)
畜 産	6,872,342 万円	11.5% (11.2%)	98.7% (100.7%)	6,680,148 万円	97.3% (99.1%)
惣 菜	6,192,159 万円	10.4% (10.5%)	104.8% (106.5%)	5,994,065 万円	103.0% (104.6%)
日配食品	11,518,083 万円	19.3% (19.8%)	99.7% (102.3%)	11,203,963 万円	98.4% (100.9%)
加工食品	14,601,317 万円	24.5% (24.2%)	99.5% (102.8%)	14,221,315 万円	98.4% (101.6%)
生活関連	3,639,593 万円	6.1% (5.9%)	96.4% (96.8%)	3,565,088 万円	95.9% (96.4%)
衣 料 品	1,662,968 万円	2.8% (2.3%)	102.7% (86.7%)	1,647,721 万円	103.9% (87.6%)
そ の 他	3,287,662 万円	5.5% (5.1%)	97.2% (101.0%)	3,269,788 万円	97.8% (101.6%)

② 数 値

全店総売上高	59,711,856 万円	店舗数	5,002 店舗
総売場面積	9,700,996.6 m ²	総従業員数	276,156 人
店舗平均月商	11,937.6 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,058.1円 (100.5%)
月間m ² 売上(前月)	6.2 万円 (6.2万円)	平均売場面積	1,939.4 m ²
月間坪売上(前月)	20.3 万円 (20.5万円)	パート比率(前月)	76.6% (76.7%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ◆ 天候について
 - ・ 平均気温は、北日本でかなり高く、沖縄・奄美では低かった。東・西日本では平年並だった
 - ・ 降水量は、北日本、東日本の日本海側、西日本の太平洋側で多かった
 - ・ 日照時間は、東日本でかなり多かった
- ◆ 土日祝日の日数について
 - ・ 昨年と比べて日曜日が1日少なく、火曜日が1日多かった
- ◆ 新型コロナウイルス感染状況
 - ・ 全国1日当たりの新規感染者数は100～250人前後で推移し、先月に続いて減少傾向であった一方で、月末には新たな変異株の感染者が国内で確認された
- ◆ 商品動向全体
 - ・ 飲食店やイベントなどの制限緩和による人流の変化により、週末を中心に客数が減少しているとのコメントが先月より多くみられた
 - ・ 生鮮食品は、野菜の相場安や、輸入牛・輸入豚の相場高、水産物の相場高などの影響により苦戦している。気温が高かった地域では、先月に引き続き鍋物関連商材の動きが鈍かったとのコメントがみられた。
 - ・ クリスマスケーキやおせちの予約が好調とのコメントがみられた

《 商品動向 》

○農産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 野菜全体では、月末に向けて安値で推移した
 - ・ 果物は、国産、輸入ともに高値で推移した
- ◆ 商品動向
 - ・ たまねぎやじゃがいもなど土物類が好調であった
 - ・ きのこと類、だいこんが低調であった
 - ・ キウイやバナナ、いちごが好調であった
 - ・ りんごは春の霜害による入荷数減少の影響で低調であった

○水産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 前年に比べて全体的に高値で推移した
- ◆ 商品動向
 - ・ 刺身、丸魚、塩干は低調であった
 - ・ 水産部門で扱う惣菜や寿司が好調であったとのコメントがみられた
 - ・ ブリは養殖の出荷量減少、原価高騰の影響を受けて低調であった

○畜産

◆ 相場状況（卸売価格）

- ・ 和牛や国産豚肉、国産鶏もも肉が安値、国産鶏むね肉は高値で推移した

◆ 商品動向

- ・ 全体的に低調で、特に牛肉、豚肉は国産・輸入ともに低調であった

○惣菜

- ・ 天ぷらやフライが概ね好調であった
- ・ 寿司や弁当、米飯は好不調が分かれた

○日配食品

- ・ 冷凍食品や簡便商品、鶏卵が好調であった
- ・ 牛乳、ヨーグルト、漬物、水物は低調であった
- ・ クリスマスケーキの予約が好調とのコメントがみられた

○加工食品

- ・ 米、調味料が低調であった
- ・ ノンアルコール飲料が好調であった
- ・ 気温が高かった地域では飲料が好調であった

○「ボジョレー・ヌーヴォー」「ブラックフライデー」の動向について

- ・ ボジョレー・ヌーヴォーについて、予約販売は好不調が分かれたが、店頭販売は好調であった。ハーフサイズの商品や高単価商品が好調であったとのコメントがみられた。
- ・ ブラックフライデーに取り組んだ店舗では、概ね好調で気温低下の影響を受けて冬物衣料の動向がよかったとのコメントがみられた。